

# 「当院における苦痛のスクリーニングの実態調査」について

加古川中央市民病院緩和ケアセンターでは、現在、入院患者さんのうち苦痛のスクリーニングの質問表にご記入頂いた患者さんを対象に下記の研究を実施しております。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

## 【研究概要及び利用目的】

がん診療連携拠点病院では、患者さんの身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を経時的に行うために、苦痛のスクリーニングを行っています。2021年から苦痛のスクリーニングの質問票を、生活のしやすさに関する質問票からIPOS（つらさと気がかりの問診票）へ変更し、苦痛のスクリーニングを実施しています。また、2022年からは、がん患者さんだけでなく心不全患者さんへも対象を拡大したので、IPOSの実施件数は増えています。本研究では、IPOS（つらさと気がかりの問診票）のデータを収集・分析し、疾患や診療科、性別、年齢別の苦痛の実態を明らかにし、今後の看護ケアや医療提供体制に活かしていくことを目的としています。

※IPOS（Integrated Palliative care Outcome Scale）とは、身体や心のつらさ、心配事や気がかりについて尋ねる質問票のことです。IPOSは、患者さんご自身が評価することにより、正確に患者さんの症状について評価することができるため、世界的に標準的な尺度として利用されています。

## 【研究期間】

研究期間：加古川中央市民病院院長承認日～2024年3月31日。

## 【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

2022年10月～2023年3月の間に加古川中央市民病院に入院し、IPOSをご記入いただいた患者さんの診療録より下記の情報を取得いたします。

- ①基本情報：性別、年齢
- ②疾患情報：疾患名、診療科、入院時診断名

## 【個人情報保護の方法】

プライバシーの保護に配慮するため、患者さんの情報は直ちに識別することができないよう、研究対象者識別番号リストを作成して加古川中央市民病院の3階緩和ケアセンターの鍵のかかる保管庫で管理します。

研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。この研究に参加していただいた患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。患者さんの個人情報は研究責任者が責任をもって保管します。

#### **[データおよび試料提供による利益・不利益]**

利益：通常診療の情報を用いており、データをご提供頂いた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。

不利益：カルテからのデータのみ利用するため特にありません。

#### **[登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて]**

本研究において取得したデータ等は、研究期間中は古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しは行いません。患者さん及びその家族等から参加拒否または同意撤回があった場合には、その患者さんに関するデータはすみやかに廃棄します。

#### **[研究成果の公表について]**

研究成果は学術目的のための論文や学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

#### **[研究へのデータ使用の取りやめについて]**

いつでも可能です。患者さんのデータを用いられたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。取りやめの申し出を受けた場合、それ以降患者さんのデータを本研究に用いることはありません。データ使用の取りやめを申し出た場合でも、患者さんが通常受けられる診療において不利益を受けることはございません。しかし、同意を取り消した時点ですでに研究成果が論文などで公表されていた場合は廃棄できませんのでご了承願います。

#### **[情報の提供を行う機関の名称及び管理責任者の氏名]**

加古川中央市民病院 院長 大西 祥男

#### **[問い合わせ窓口]**

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい時や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 緩和ケアセンター

研究責任者名 阪井 美緒

連絡先：079-451-5500